

令和7年度 学校評価報告書(松山市教育委員会統一様式)

学校番号	
小	134

【評定】 4:とても思う(あてはまる) 3:やや思う(あてはまる)  
2:あまり思わない(あてはまらない) 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市立 たちばな小 学校

【総合判定】 A:肯定率の平均が90%以上  
B:肯定率の平均が60%以上90%未満  
C:肯定率の平均が60%未満

学校長 城戸 敬幸

※ 肯定率とは、評定(%)の評定4と評定3の合計値です。 ※ 色が付いているセルのみ入力してください。

評価領域	評価指標	総合判定	対象	肯定率	評定(%)				評定平均	○成果 もしくは ◆改善策
					4	3	2	1		
教育課程・学習指導	学校は、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	A	教職員	100	27	73	0	0	3.3	○明確な研究目標と計画的な研修の取組により、伝え合いを重視した授業づくりができています。今年度は、授業終了の振り返る時間を保証して関わり合うことよさや学びの変容を実感できるようにした。 ○日常の教科指導や試飲会活動、係活動等において、タブレット等を有効に活用できている。3年生以上は毎日計画帳をタブレットで送ることで、児童も教師も時間的な余裕を生み出している。◆タブレットの故障が多いので、適切な使い方の指導を継続していく。 ○朝の「かんじはかせ・さんすうはかせ」の取組や日々の学習の積み重ねで、どの教科も全国・県平均を上回っている。体力面の向上を目指して、なわとびを使った活動に継続して取り組んでいく。 ○各学年で、可能な限り地域のゲストティーチャーを招き、授業の中で話をしてもらったり、地域にあるものを調べたりしている。故郷たちばなを大切にしたいという思いが少しずつ育ってきている。
			学校関係者	100	75	25	0	0	3.8	
	学校は、教科等の指導においてアナログとデジタルそれぞれのよさを適切に生かした授業改善に取り組んでいる。	A	教職員	100	46	54	0	0	3.5	
			学校関係者	100	63	37	0	0	3.6	
	学校は、児童生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	A	教職員	100	46	54	0	0	3.5	
			学校関係者	100	50	50	0	0	3.5	
	学校は、地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成に努めている。	A	教職員	100	50	50	0	0	3.5	
			学校関係者	100	57	43	0	0	3.6	
人権・同和教育・生徒指導	学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	A	教職員	100	73	27	0	0	3.7	○人権・同和教育参観日を通して、日常の中の不合理なことについて考えたり、保護者への啓発をしたりできた。 ○5つのを共通指導することで、児童の規範意識が醸成されつつある。◆学校外でのトラブルが未然防止できるよう、家庭との連携を密にしながら指導していく。
			学校関係者	100	50	50	0	0	3.5	
	学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童生徒の実態に応じた適切な指導を行っている。	A	教職員	100	81	19	0	0	3.8	
			学校関係者	100	75	25	0	0	3.8	
キャリア教育	学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童生徒を育てている。	A	教職員	100	42	58	0	0	3.4	○キャリアサポートの活用や出前授業、外部講師との交流などにより、将来に夢や基盤を培く児童が増えてきている。
			学校関係者	100	50	50	0	0	3.5	
安全管理	学校は、児童生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	A	教職員	100	73	27	0	0	3.7	○安全点検の徹底と早急な修理改善に努め、児童への指導も定着している。◆児童の自己管理能力を育てる指導に取り組むとともに、下校時の歩き方について繰り返し指導する。
			学校関係者	100	88	12	0	0	3.9	
保健管理	学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。	A	教職員	100	77	23	0	0	3.8	○テイルを活用した朝の連絡が定着した。東部のけがや発熱があった場合は、連携して迅速に連絡し、保護者に迎えに来てもらうことができた。 ○常時教室の対角線上の窓を開けて換気の徹底ができた。業間や給食準備中、昼休みには、児童自ら窓を全開にして換気をするようになってきている。また、保健だよりを通して保護者への啓発も行っている。
			学校関係者	100	71	29	0	0	3.7	
	学校は、換気や手衛生などの基本的な感染症対策を行っている。	A	教職員	100	85	15	0	0	3.9	
			学校関係者	100	88	12	0	0	3.9	
特別支援教育	学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	A	教職員	100	73	27	0	0	3.7	○コーディネーターを中心に、配慮を要する児童の実態を共有し、教職員全員で関わる体制ができています。適宜教育相談を行い、児童が安心して学べる環境を模索している。
			学校関係者	100	75	25	0	0	3.8	
組織運営	学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。	A	教職員	100	88	12	0	0	3.9	○様々な事業を学年部や生徒指導部、管理職が共有し、最善策を講じて対応することができた。今後も報・連・相を大切にしながら、組織として対応していく。
			学校関係者	100	63	37	0	0	3.6	
研修	学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応に向けて、積極的に研修に取り組んでいる。	A	教職員	100	58	42	0	0	3.6	○研修計画に基づいて、計画的に研修が深められている。今年度から、本格的に保幼小中連携に関する研究実践が始まった。他校の取組を知ることは、よい刺激となっている。
			学校関係者	100	71	29	0	0	3.7	
保護者・地域との連携・情報提供	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	A	教職員	100	46	54	0	0	3.5	○見守り活動や様々な行事等を通して、地域や保護者とのコミュニケーションが図られた。コミュニティ・スクールのコーディネーターが決まり、スムーズに協力依頼ができるようになった。 ○可能な限りHPや学年だよりを更新し、学校の様子を伝えることができた。今後も継続して発信していきたい。
			学校関係者	100	63	37	0	0	3.6	
	学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システム等により、積極的に情報を発信している。	A	教職員	100	73	27	0	0	3.7	
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
教育環境	学校は、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めている。	A	教職員	100	31	69	0	0	3.3	○大規模改修工事に伴って、音楽会を学期ごとに3回に分けて行った。回を重ねるたびに、児童の感想等の発言が深まっている。
			学校関係者	100	75	25	0	0	3.8	
幼保小中連携	学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	A	教職員	100	42	58	0	0	3.4	○小1児童の不安感の解消や学校生活への適応促進のために、学校生活支援員や学級支援員を配置し、対応している。校区にある幼稚園児を招待し、1年せと楽しく交流することができた。 ○採用小中連携の研究実践で、他の小学校や中学校の取組を知ることもできた。今後もICTを活用した交流を通して、児童相互の理科が深まるようにしていく。
			学校関係者	100	63	37	0	0	3.6	
	学校は、関係園・校で連携して児童生徒への理解を促進するとともに、系統性を重視した学習指導を行っている。	A	教職員	100	69	31	0	0	3.7	
			学校関係者	100	69	31	0	0	3.7	

